

## 2022年度（対象年度：2021） 自己点検・評価シート

## 基準27 人権に関する取り組み【独自】

## ■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

## &lt;前年度の伸長・改善計画&gt;

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
102	「人権・ダイバーシティ・インクルージョンに関する意見」をもとに研修会や提言をおこなう。

## &lt;前年度の評価結果（課題事項）&gt;

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。 ・昨年度（2020年度）も課題事項として記載しているが、人権啓発の取り組みに関しては、その他の基準（人権啓発）を立てて、基準1（理念・目的）とは切り離し、その取り組みを評価することが望まれる。大学評価支援室と協議いただきたい。【留意点】
--

## &lt;【参考】認証評価結果における指摘事項&gt;

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

## I. 自己点検・評価

## 1 自己点検・評価結果 &lt; 評定 &gt;

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
2701	人権に関する全学的な方針を設定し検証しているか。また、その方針にしたがって理解促進に努めているか。 ①人権学習・啓発および理解醸成 ・学生・教職員への周知・理解 ・本学の人権課題の検証	A

## 2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
2701 人権に関する基本方針や性のあり方の多様性に関する基本指針を定め、HP、学生手帳、出講手帳等に掲載している。(2701①)
2701 人権問題研究委員会において、当該年度に適切と思われる全学人権講演会のテーマを検討・実施し、あわせて各学部教授会にて人権研修を毎年実施している。(2701②) また、毎年テーマを選んで人権冊子「白色白光」を発行し、全新生に配布するとともにPDFで公開している(2701②-2)

2701 性の多様性を評価する「PRIDE 指標」に応募し本学の現状を把握している(2021 年度はシルバー) (2701③)	
長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
項目 No.	2701 性の多様性に関する対応として、卒業証明書に記載する氏名を、在学時の氏名ではなく、改姓名後の氏名で発行できるようになった。性の多様性については、在学生等の学内者だけでなく、学外からも多くの問い合わせや講演依頼があり、トイレフォーラムにも多くの学外者が参加し、社会貢献につながった。 2701 全国水平社宣言や太平洋戦争開戦 80 年の動画を作成し公開することができた。
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
項目 No.	2701 学生の通称名や教職員の通称名、同性を含む事実婚のパートナーを配偶者と認めていない等、制度の検討や整備が進んでいない。(2701④-1、2701④-2)
項目 No.	

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

#### <伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
人権・ダイバーシティに関する提言については、宗教部長が参画する仏教 SDGs 推進協議会において「SDGs 宣言」が策定されたことから、一定の成果があったと判断する。 ロシア軍のウクライナ侵攻に対し、戦争に反対するホームページや掲示板を掲示した。

#### <今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
2701	ジェンダーギャップの解消に向け、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく一般事業主行動計画(2022年4月1日～2025年3月31日)にもとづき検討を始める。(2701⑤)

### 4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
2701	①	人権に関する基本方針、性のあり方に関する基本指針
2701	②	全学人権講演会・学部別人権研修会一覧
2701	②-2	人権冊子「白色白光」年度別テーマ一覧
2701	③	PRIDE 指標シルバー認証
2701	④-1	人権問題研究委員会「性別違和を持つ卒業生等の証明書記載名および学生の通称名等の取扱について（上申）」<2018年6月13日>
2701	④-2	人権問題研究委員会「制のあり方の多様性に関する本学の現状と課題について（上申）」<2018年10月29日>
2701	⑤	学校法人龍谷大学 行動計画【第40回常任理事会（2022年3月24日開催）承認】

## II. 評価結果

総評
<p>本学の人権を考える理念として「人権に関する基本方針」、「性のあり方の多様性に関する基本指針」を定め、HP等で公表している。</p> <p>人権問題に関する調査・研究を推進するため「人権問題研究委員会」を設置し、調査・研究を通して人権課題の検証、提言、啓発などを行っている。人権問題研究委員会では、毎年度、全学研修会を開催するとともに、あわせて各学部が人権研修（主に教育職員対象）を実施している。また人権学習誌「白色白光」を発行し、全新生に配布するとともに、宗教部HPにも公開している。</p> <p>毎年度、任意団体「work with Pride」が実施する、LGBTなどのセクシュアル・マイノリティへの取組みを評価する「PRIDE指標」に応募し、本学の現状の把握に努めている（2021年度はシルバー評価を得ている）。</p> <p>課題事項である「学生の通称名や教職員の通称名、同性を含む事実婚のパートナーを配偶者と認めること等」は、人権問題研究委員会が「性のあり方の多様性に関する本学の現状と課題について（上申）」（2018年10月29日）として提起したものであり、引き続き検討が進むことが望まれる。またジェンダーギャップの解消に向けた取組みについても、「学校法人龍谷大学 行動計画」（第40回常任理事会（2022年3月24日開催）が審議・承認されている。同行動計画のもと検討が進むことが期待される。</p> <p>以上、人権に関する全学的な方針を定め、その方針に基づき研修会を開催し、人権学習誌を発行・配付するなど人権に対する理解促進に努めているものと評価できる。特に近年は「性のあり方の多様性に関する基本指針」に基づく取組みを積極的に実施している。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>近年は「性のあり方の多様性に関する基本指針」に基づく取組みを積極的に実施している。</p> <p>ジェンダーギャップの解消に向け、「学校法人龍谷大学 行動計画」（第40回常任理事会（2022年3月24日開催）のもと検討が進むことが期待される。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>人権問題研究委員会が「性のあり方の多様性に関する本学の現状と課題について（上申）」（2018年10月29日）として提起した課題等について、引き続き検討が進むことが望まれる。【留意点】</p>